

シャープ時代の回想録

～緊急プロジェクトの思い出～

河内 厳

シャープでの波乱万丈な38年間の中でも思い出深いのが、社長直轄緊急プロジェクトでの日々です。当時のシャープは、名札の色一つにも軍隊的な厳しさを感じさせる会社だった。金、銀、青、赤。その階級を示す色の中で、私が手にした金バッジは『緊プロ（通称）』という社長直轄の一員の証、そして特別な場所だった。写真の名札は、1993年のPHS事業化プロジェクト（A1169）のときのもの。その後、1998年にも携帯電話の第3世代プロジェクト（D002）で緊プロを経験させていただきました。

緊プロの特長を、公開されている範囲で3ついうと

- 1) 本社が予算をつけてくれる（事業本部は数年後、出世払いでいい）
- 2) 全社横断で組織化でき、本部間の壁がない
- 3) 緊プロが人材抜擢・選抜の見極めの場としても機能

それだけに何がなんでも成功させないと正直カッコ悪い。

大変なプレッシャーの中で（今だと〇〇ハラだとか言われるだろうw）

多様な人との関り合いから緊プロで人材が成長するのは間違いない。

“会社が成長されてくれる” こんないい話はない。遮二無二になるか、プレッシャーに負け自信を失って終わるか。個人のマインドセットによって雲泥の差がある。私は商品企画を担当していたこともあり、会社幹部をはじめ多くの方から直接ご指導を賜ることができたことは、私のキャリアにおいて、かけがえのない財産となった。

この時代のシャープは、緊プロだけでなく、事業部にある程度自由裁量があり本社に隠れて冒険も出来た。目の付け所の競い合いだった。時代は変われど温故知新、原点回帰の精神でブランド事業の成功を祈念しております。



〈コードレス電話から、移動体通信時代へ〉NTTパーソナル パルディオ102s 1995/6

- ・業界初のリチウムイオン電池採用（挑戦的だ！）
- ・95g 98cc （水に浮くんじゃないか！）
- ・連続待受時間 約400時間（マジか！何かの間違いでは？）
他社は約100時間、なんと一気に4倍に

開発チーフのHさんがめちゃくちゃ拘った。私も悪のりした。その他中継器のホームアンテナがバラマキ用に使われ事業的においしかったな。



〈通信は3Gへ～NTTドコモ参入〉NTTドコモ FOMA SH2101V 2002/7

ドコモのmova陣営に入りたくてPHSで実績を積んだ。それが評価され1999年に複合機のドッチーモに入れたが亜流路線。その頃 NTTの第三世代携帯電話（3G）の国際調達があり応募。ただ、ドコモが欲しいのは3Gの高速を活かしたPDA。ザウルスのシャープだった。「またも亜流か、ならば驚くものを創るぞ」とチーム丸となった。それがSH2101V（開発コードMulin）。単身赴任で幕張に異動し、相談役から何回もご指導を仰ぎながら仕事に打ち込んだ。打合せのために幕張から横須賀のYRP（NTTドコモR6Dセンタ）にも何度も出向いた（めっちゃ遠い！）



3G対応ザウルスOSのPDA+Bluetoothハンドセットというオンリーワンの製品。ただ、初物尽くして開発は大幅遅延、コストも嵩み高額な商品となった。リスク管理ができず商機を逸したが、記憶には残る商品。失敗から学ぶことは多い。